

令和7年7月7日（月）

魚沼きこえの教室だより

令和7年度 第4号

長岡聾学校小出分教室（小出特別支援学校内）

きこえの教室 担当：小池 豊

〒946-0035 魚沼市十日町 1738-2

Tel:025-792-5462 fax:025-792-5465

Email:koike.yutaka@nein.ed.jp

聞こえているけど、聞こえにくい…

地域の小・中学校で学ぶ難聴の子どもたちには、「聞こえているけれど、聞こえにくい」という現実があります。聞こえているというのは、聞こえやすい条件が整ってはじめて聞こえるのであって、聞こえにくい環境であれば当然聞こえません。

聞こえにくさは外見では判断できませんし、条件によって聞こえやすくなるれば、聞こえにくくなるため、一般的にまわりの人から「聴覚障害は理解されにくい」と言われます。

しかし、学校訪問をとおして感じるの、どの学校でも多かれ少なかれ、難聴児に対する具体的な配慮や支援をいただいているということです。あらためて感謝申し上げるとともに、今回は具体的に実践されていた有効な配慮について、4つご紹介させていただきます。



●全体の注目を促し、静寂と視線を確認してから説明を始める。

（難聴児が一番うれしい支援です。聞くという心構えができてから話していただくと、理解が深まります。）

●子どもたちの発言を、教師が復唱したり、板書したりする。

（子どもの発言は伝わりにくいものです。もう一度わかりやすく繰り返していただくと、大変助かります。）

●簡潔で授業の流れが分かりやすい、1時間に1板書を心掛ける。

（電子黒板等を併用しつつ、授業のねらいや流れ等を視覚的に確かめ、思考を促すため「板書」は大変有効です。）

●個別に「理解」の確認をする。

（机間巡視などの際、指示や発問を理解できているかどうか、個別に声掛けしていただくと助かります。）

補聴器のトラブル注意！ 梅雨～夏時期のケアー

夏場の補聴器の故障で一番多いのは、汗が原因と思われる電池室の錆（さび）です。汗や湿気が補聴器や人工内耳の中に浸入すると、金属部分の錆や腐食の原因となります。そして、補聴器から雑音が聞こえたり、ロジャーの接続ができなくなったりすることがあります。

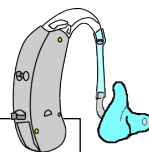
◎3つの対策！

① こまめに汗を拭き取る。

補聴器や人工内耳を外したら、まずは乾いた布などで拭く。
その後に補聴器は電池室を開ける、人工内耳は充電電池を外す。

② 電池自体もよく拭く（強くゴシゴシ拭かないでください）。

③ 乾燥ケース、または乾燥機に入れる。



補聴器、人工内耳の
周りをよく拭く！
また、耳の周りの髪
の毛も。



学校生活の中で特に気をつけていただきたいのが、①です。体育など体を動かした後などに「補聴器（人工内耳）を拭こうね」と声をかけたり、汗を拭き取る時間を確保したりすると良いと思います。

もし、学校で補聴器や人工内耳のトラブルが疑われるときは、すぐに保護者に連絡をし、補聴器販売店などで見てもらいましょう。また、きこえの教室にも連絡をいただければ、できる限りの対応をします。